

第33回総会テーマは

3 3 「愛燐燐一母校・郷土・友」



映画「たそがれ清兵衛」より 提供・松竹株式会社

皆さんご存知ですか。
第26回日本アカデミー賞(同賞協会
主催)の授賞式が3月7日、東京都内
のホテルで開かれ、山田洋次監督「た
そがれ清兵衛」が最優秀賞作品、同監
督賞など13部門中12部門で受賞しま
した。ちなみに、主演男優賞は真田
広之で主演女優賞は宮沢りえです。
テレビでその授賞式が放映され、
主演女優賞を受賞した宮沢りえが喜
びの挨拶のなかで、私は、温かみの
ある庄内弁が大好きになり、今でも
友達への手紙やメールのなかに「でが
んす」等の庄内弁が出て来ますとコメ
ントされたのが印象的だったし、ま
た感動を感じました。こんな素晴らしい
庄内で育つたことに誇りを持ち、
そして6月7日は日本海運倶楽部で、
昔に戻り、庄内弁で盛り上がり、旧
交を深め、楽しみましょう。
また、当曰は「たそがれ清兵衛」の
写真も飾ります。



題字は初代会長 故田倉八郎氏筆

第33号

発行 東京鶴翔同窓会
発行人 岡部 次樹(75回)
編集人 鈴木 武(75回)
事務局 荘内銀行 東京支店内
〒101-0047
東京都千代田区内神田2-16-9
TEL.03-3256-8911

宣伝物の企画から印刷まで
日本商業宣伝社
〒162-0041
新宿区早稲田鶴巻町567
TEL. 03-5287-5885(大代表)
佐藤成生(59回)

第33回 東京鶴翔同窓会のご案内

- 日時：平成15年6月7日(土)
13:30～16:00(受付開始12:30)
- 場所：日本海運倶楽部二階大広間
千代田区平河町2-6-4 海運ビル
電話 03(3264)1825
- 地下鉄(有楽町線、半蔵門線) 永田町駅1分
(銀座線、丸の内線) 赤坂見附駅5分
- 会費：一般会員 8,000円
高齢会員(48回卒以前) 4,000円
大学・専門学校会員 4,000円
他に東京鶴翔同窓会年会費、一口1,000円以上
- 出欠の返事
出欠の返事は5月15日(木)までに同封のハガキまたは東京鶴翔同窓会ホームページにてお願いします。
・ホームページアドレス <http://www.tokyokakushou.com>



祝 第33回 東京鶴翔同窓会総会											
実行委員長	岡部	梅津	福原	清水	篠崎	河野	大泉	梅津	会報部会長	菅野	会報部会長
副実行委員長	梅津	三浦	高橋	佐藤	齊藤	小松原	阿部	足達	会報部会長	鈴木	会報部会長
会報部会長	梅津	高橋	佐藤	齊藤	小松原	阿部	足達	加藤	会報部会長	菅野	会報部会長
会場部会長	梅津	福原	南津子	清水	河野	大泉	梅津	千里	会場部会長	京子	会場部会長
会場部会	梅津	南津子	守	守	守	守	守	守	会場部会	武	会場部会
書会	千里	(75)	(85)	(85)	(85)	(85)	(85)	(85)	書会	(75)	書会
記計	会場部会	会場部会	会場部会								
福原	福原	福原	福原	福原	福原	福原	福原	福原	福原	福原	福原
清水	南津子	南津子	南津子								
会場部会	守	守	守	守	守	守	守	守	守	守	守
坂本	坂本	坂本	坂本	坂本	坂本	坂本	坂本	坂本	坂本	坂本	坂本
川合	川合	川合	川合	川合	川合	川合	川合	川合	川合	川合	川合
ちず子	ちず子	ちず子	ちず子	ちず子	ちず子	ちず子	ちず子	ちず子	ちず子	ちず子	ちず子
千里	千里	千里	千里	千里	千里	千里	千里	千里	千里	千里	千里
梅津	梅津	梅津	梅津	梅津	梅津	梅津	梅津	梅津	梅津	梅津	梅津
小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川
沖津	沖津	沖津	沖津	沖津	沖津	沖津	沖津	沖津	沖津	沖津	沖津
由紀夫	由紀夫	由紀夫	由紀夫	由紀夫	由紀夫	由紀夫	由紀夫	由紀夫	由紀夫	由紀夫	由紀夫
範子	範子	範子	範子	範子	範子	範子	範子	範子	範子	範子	範子
真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真

(2)特別会計		(1)一般会計	
収入の部	支出の部	収入の部	支出の部
科 目	金 額	科 目	金 額
前期より繰越	3,086,291	一般会計支出	0
預金利息	1,224	次期繰越金	1
一般会計繰入	0	(普通預金)	1
合 計	3,087,515	(定期預金)	3,087,514
		合 計	3,087,515

(2)特別会計		(1)一般会計	
収入の部	支出の部	収入の部	支出の部
科 目	金 額	科 目	金 額
前期より繰越	833,624	総会費	1,887,329
年会費	1,382,000	事務費	1,320,328
広告収入	694,000	(印刷費)	560,385
雑収入等	1,515,000	(通信費)	673,124
(祝い金)	150,034	(雑品費)	33,119
(預金利息)	150,000	(旅費交通費)	53,700
広告費	34	会議費	288,473
H.P管理費	21,000	その他	110,000
特別会計繰入収入	0	特別会計繰入支出	0
合 計	4,574,658	次期繰越金	858,635
		合 計	4,574,658

本会の収支決算について厳正に監査を実施したところ、
その執行は適正であると認められます。

会計監事 山中昊 吉敏守
村田 清水

「春」とはいえ、まだ残雪もようやく弛みはじめた頃で、月山の峰も当然冬のマンマだろ
うし、厳しい自然環境に置かれているのは間違いない。30年以上昔になるが、五月の連休に帰省して、朝日の大鳥にいったことがある。タマゲタ、背丈ぐらいな雪渓が続いているのを見て、我が故郷は、雪国だなあと感心したことがある。爾来三十年以上、全国の現場や計画地を見てきたけれども、やはり正真正銘の「東北」だと思う。これはある意味では「強み」になるものだと思う。

住宅事情の良くない、昭和三十年代から四十年代の裏日本の、生活実感というものが我々の血肉となり、時として噴出するものだ。その後や計画地を見てきたけれども、これから冬の早朝凍える手足を、襟先に隠しながら、炭を煽るのを待っていたり、これから季節屋根の氷を流れ落ちる水滴の、暖かさに雪解けの到来を感じて心がうち震えたり、そんな思いは「莊内」だからこそ貴重なものでよ。今回のテーマは――愛燐燐・母校・郷土・友――ワリとすんなり決まった。その後の原稿依頼だと、編集は、ネボケテ全然関知しなかったのであまり褒められられた編集部員とは言えないのですが、十年に一度のお役目、次は確約しているならともかく、微力ながら、精一杯務めさせて頂きました。

ひるがえって、十年前に何をしていたかを思うと、全然思い出せない。十二年前は海岸戦争だったそうだから、あの時はTVに囲まれ付いて、いたんだがねえ。戦争といえば、この間に亡くなつた方も大勢おられる。鎮魂の気持ちを込め、テーマと共に、貴重な原稿を寄せて下さつた方々と、広告出稿に御協力を頂いた方々に、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

祝 第33回東京鶴翔同窓会総会

実行委員会担当幹事年次

65回生、75回生、85回生

祝 第33回東京鶴翔同窓会総会

第75回(昭和43年卒)3年4組

有志一同

編集 後記

平成14年度
平成十四年一月一日～十二月三十一日

東京鶴翔同窓会の皆様、お元気でいらっしゃいますか。もうもうの希望を託した新世紀は、暗い空気に覆われたまま、先の見えない不況に加えて、世界を巻き込む「きなくさ」が充満しています。もはや、個人の力でも、一国の力でもどうにもならない世界規模の難局に私達は直面しております。

このやり場のない暗さのなか、ポツと灯りがともったように、今年度の第三回総会のテーマは「愛、燐燐—母校郷土・友」です。「愛」があればすべてが解決できるような生易しい世の中ではありませんが、生きとし生けるもののベースは、「愛」ではないでしょうか。

「愛」について考えるとき、思い出す光景があります。六、七歳ぐらいの女の子が電車のホームで激しく泣きじやくつていました。いつまでも泣き止まないし、絞り出すような声で何か言っているので、思わず近くに寄つて聞き耳を立てました。「お母さん、私をもっとかわいがってよ!」と繰り返しているのです。子供の声とも思えない悲痛

度の第三回総会のテーマは「愛、燐燐—母校郷土・友」です。「愛」があればすべてが解決できるような生易しい世の中ではありませんが、生きとし生けるもののベースは、「愛」ではないでしょうか。

このやり場のない暗さのなか、ポツと灯りがともったように、今年度の第三回総会のテーマは「愛、燐燐—母校郷土・友」です。「愛」があればすべてが解決できるような生易しい世の中ではありませんが、生きとし生けるもののベースは、「愛」ではないでしょうか。

やあ！皆さん今日は、私は七十五回卒業の岡部（旧姓竹島）です。昨年友達に誘われ初めて東京鶴翔同窓会総会に参加しました。あーこんなイベントを毎年行い、もう今年で三十二回になるのだという驚きと感心の気持ちで楽しんでおりましたところ、突然来年第十三回東京鶴翔同窓会総会の実行委員長を七十五回卒業の岡部さんにお願いしますとアナウンスされました。それを聞いた時には、一瞬頭がパニック状態に陥り、目の前が真っ白になってしましました。しかし誰かがやらなければと思いつつ、第三十三回東京鶴翔同窓会の実行委員長を引き受けさせていただくことにいたしました。ですが、私みたいな何もわからない新参者がこんな大役引き受けけて大丈夫なのかといふ不安はありました。

十月四日に前任者（第三十二回東京鶴翔同窓会総会の実行委員のメンバー）へ引き継ぎを行い、第三十三回東京鶴翔同窓会総会の実行委員会がスタートしました。その席で東京鶴翔同窓会桜井会長より来年の総会に向けての大きな流れ、そしてやらな

衣をまとひ朝の光に輝く雄大な鳥海山が目に飛び込んできました。美しい姿には未だかつてお目にかかることがない。今年の三年生は素晴らしい成果を上げてくれること間違いない姿勢で眺めてきたことか。これ程の姿にはまだかつてお目にかかることがない。これまで何回となく鳥海山に登り、瞬視野が開け、そこにふつくらと白衣をまとい朝の光に輝く雄大な鳥海山が目に飛び込んできました。美しい姿の感動の十分の一も残せないとわかつていながら何度もシヤツターを切る。

本年度より鶴岡南校にお世話になつているが、毎日が緊張の連続である。特に四月は何もわからず、お腹の筋肉も緊張しつぱなしの状態であった。歓迎会の翌日（休日）学校で仕事をしていたが、ふつと思い立ち午後から金峰山に向かう。足がひとりでに動き、いつか山頂の社に着く。もう汗だくであつたが、鶴岡の街を一望しながらのそれはもう快感である。

江の実家から月山を越えて、一路鶴岡へ向かう。朝日村の豪雪を過ぎ一瞬視野が開け、そこにふつくらと白衣をまとひ朝の光に輝く雄大な鳥海山が目に飛び込んできました。美しい姿には未だかつてお目にかかることがない。今年の三年生は素晴らしい成果を上げてくれること間違いない姿勢で眺めてきたことか。これ程の姿にはまだかつてお目にかかることがない。これまで何回となく鳥海山に登り、瞬視野が開け、そこにふつくらと白衣をまとい朝の光に輝く雄大な鳥海山が目に飛び込んできました。美しい姿の感動の十分の一も残せないとわかつていながら何度もシヤツターを切る。

本年度より鶴岡南校にお世話になつているが、毎日が緊張の連続である。特に四月は何もわからず、お腹の筋肉も緊張しつぱなしの状態であった。歓迎会の翌日（休日）学校で仕事をしていたが、ふつと思い立ち午後から金峰山に向かう。足がひとりでに動き、いつか山頂の社に着く。もう汗だくであつたが、鶴岡の街を一望しながらのそれはもう快感である。

集まろう 世代を超えた仲間たち



岡 部 次 樹
(75回卒)

「私たちも75回生です！」
伴 和香子（声楽家）



したかったのは郷土が生んだ作家藤沢周平の作品たそがれ清兵衛

でした。昨年映画化され舞台が庄内地方だったこともあり、ロケも湯田川等で行われ、また方言指導として七十回卒業の菅原司さん大田良弘さんが参加されました。皆さんの中に

はこの映画をぐらんになられた方も多くおられると思います。私も見て感動しました。そ

んな背景の下、今回のテーマ「愛燐燐—母校・郷土・友」が決まりました。また、当日の総会に於いても少しでも皆様の記憶に残る感動の一ページになるようスタッフ一同趣向をこらし、頑張っていますの

で、二〇〇三年六月七日この栄えある東京鶴翔同窓会には、是非仲間、先輩、後輩を誇り多くの人達が日本海運俱楽部にさあー集まつてがんせ。

りの山歩きを一人楽しむ。

近くの温泉で汗を流し帰りに見つけたのが今話題の藤沢周平氏の碑、街に戻り改めていろいろな碑があることを初めて気づく。致道博物館は勿論であるが、のちに訪れた大寶館

祭（体育祭）。各組が陣地を築き、猛暑のなか更に熱気を帯びて各競技が進行。そしていよいよ応援合戦が始まった。一組百二十名がひとつになると選曲、衣装、踊りの振り付けにいたるまで自分たちで考え準備

し、その思いを表現しようとして一人ひとりが一糸乱れず舞う姿に誰しもがぞくぞくとする感動を感じた。優雅であり、華やかで心うたれた。優雅であり、華やかであり、そして訴えるものがあった。たった一週間の準備期間にこれだけのものを創り上げるその力はある生徒たちの何處に蓄えられていたのか。

鶴岡燐燐



松 田 明
鶴岡高等学校 教頭

市ではこれまで大寶館で整理された資料をまとめ『鶴岡の偉人たち』と題して一冊の本を出版、大変好評を博している。鶴岡の城下町全体でひとつの大きな「文化」という宝を育んでいる。生徒たちのあの力もきっとそういうところから自然と受け継がれてきているのではないか。

今年の歌会始の儀に酒井忠明氏が召人選され詠まれた歌、

今もなほ

殿と呼ばることありて

この城下町にわれ老いにけり

この歌も鶴岡に住んで初めてわかること。これからも、鶴岡の奥の深い文化を探していただきと思う。

今もなほ

殿と呼ばることありて

この歌も鶴岡に住んで初めてわかること。これからも、鶴岡の奥の深い文化を探していただきと思う。

今もなほ

平成十五年一月三日、今日から三年生が学校を開けて最後の追い込みに頑張ること、激励のため寒河江の実家から月山を越えて、一路鶴岡へ向かう。朝日村の豪雪を過ぎ一瞬視野が開け、そこにふつくらと白衣をまとひ朝の光に輝く雄大な鳥海山が目に飛び込んできました。美しい姿には未だかつてお目にかかることがない。今年の三年生は素晴らしい成果を上げてくれること間違いない姿勢で眺めてきたことか。これ程の姿にはまだかつてお目にかかることがない。これまで何回となく鳥海山に登り、瞬視野が開け、そこにふつくらと白衣をまとひ朝の光に輝く雄大な鳥海山が目に飛び込んできました。美しい姿の感動の十分の一も残せないとわかつていながら何度もシヤツターを切る。

本年度より鶴岡南校にお世話になつているが、毎日が緊張の連続である。特に四月は何もわからず、お腹の筋肉も緊張しつぱなしの状態であった。歓迎会の翌日（休日）学校で仕事をしていたが、ふつと思い立ち午後から金峰山に向かう。足がひとりでに動き、いつか山頂の社に着く。もう汗だくであつたが、鶴岡の街を一望しながらのそれはもう快感である。

本年度より鶴岡南校にお世話になつているが、毎日が緊張の連続である。特に四月は何もわからず、お腹の筋肉も緊張しつぱなしの状態であった。歓迎会の翌日（休日）学校で仕事をしていたが、ふつと思い立ち午後から金峰山に向かう。足がひとりでに動き、いつか山頂の社に着く。もう汗だくであつたが、鶴岡の街を一望しながらのそれはもう快感である。

八月三十一日、待ちに待った南校祭（体育祭）。各組が陣地を築き、猛暑のなか更に熱気を帯びて各競技が进行了。そしていよいよ応援合戦が始まった。一組百二十名がひとつになると選曲、衣装、踊りの振り付けにいたるまで自分たちで考え準備し、その思いを表現しようと一人ひとりが一糸乱れず舞う姿に誰しもがぞくぞくとする感動を感じた。優雅であり、華やかで心うたれた。優雅であり、華やかであり、そして訴えるものがあった。たった一週間の準備期間にこれだけのものを創り上げるその力はある生徒たちの何處に蓄えられていたのか。



大 泉 正 (85回卒)
(日本ファイナンシャルプランナーズ協会会員 No.903235)

アリコ ジャパン
アリコ・ジャパン・ブランディング・カンパニー
〒104-0045 東京都中央区築地6-19-20 ニチレイ東銀座ビル3階
TEL 03-5550-9931 FAX 03-5550-9995
本社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-1-3

三菱重工業 ポンプ全国総代理店
環境装置・一般機械代理店

新菱工業株式会社

本社 〒160-0007 東京都新宿区荒木町十四番地（第五新菱ビル）
電話 03(3225)14801 FAX 03(3225)3223
営業所 札幌・仙台・名古屋・金沢・大阪・高松・広島・福岡・高砂

**時代を見据える
地域に根差す芽を
育み続けたい**

五 荘内日報社
本社／山形県鶴岡市馬場町8-29
酒田支社／山形県酒田市二番町6-2
山形支局／山形市桜田東一丁目13-7
東京支局／千葉県市川市大野町1-383-10
TEL 0235(22)14801(代)
TEL 0234(22)4244(代)
TEL 023(622)4519
TEL 047(337)6568

本場讃岐うどんのお店

祝 うどん布 酒田店
〒998-0841 山形県酒田市松原南6-1
TEL 0234-23-3868
FAX 同上
E-mail tateno@siren.ocn.ne.jp 75回生 植野洋明

私は現在都内で個人タクシーをやりながら、舞台で役者をやっている鶴岡南高校七十回卒業生です。不肖の卒業生で、あまり郷土愛・母校愛みたいなものは持つてなかつたと思ひます。東京鶴翔同窓会に出始めたのも、つい、この三、四年の事でしょうか。しかもしもつべきものは友ですね。私は友達は大事にしたいものだと思っております。同じ学校で学んだら友、同じ仕事をしたら友、一度語り合つたら友、そう思つております。ですが、さすがに山田洋次監督を友とは呼べませんね。やはり、「師」でしょう。

高校の同級生の太田良弘君からたそがれ清兵衛」の方言指導の電話があつたのは、私が語りを演つてる本番の前でした。私はすぐ飛び付きました。以前に映画・テレビに出て苦い思い出もしていて、映像をやるならスタッフと思つたのです。

先ず、山田監督が何故藤沢周平なのかを知りたいと思いました。不肖

不肖の南高卒業生



菅原司

私は藤沢周平が鶴岡の生れだと知ったのはわらび座の公演でした。劇場が悪くて、舞台をやっている私には不評でした。「たそがれ清兵衛」の話がきてからは必死で藤沢周平を読みました。面白かったです。人間が行動を起すには理由がある。それをながら書いてるような気がしました。それと文がきれいなんですね。これを絵にするのはやはり山田監督ですね。トランさんの映画を観てもその土地土地の風景が実にきれいです。又人ととのつながりの喜び、これを人情という人もあるんですが、人間が社会生活を営む理由はここにあるんですね。これを操るのがうまいといいます。

私はタクシーを三ヶ月も放つておけないので京都にもつていったのですが、それで監督の送りを撮影所からホテルまで何度も行つた。その途中でのお話、面白かったです。文 明批判、今はパソコン、携帯電話ができないと人間扱いされない。それは間違いだと言う訳です。勉強で取り残された生徒を人間扱いしない。これと同じなんですね。賛成です。

驚きました。というか感動しました。
観念的でないんです。でもいざ撮影
となると、自分にもスタッフにもキ
ヤストにも厳しいです。撮影が進ん
でるうちに、監督自身の思いが動く
んですね。解らないことは研究会と
いつてスタッフを集めて話し合いをす
る。その時間があればいいのですが、
その度に回りはアタフタ。撮つてる
時は「何で?」なんて思うのですが、
やはり撮り直した方がいいんです。
映画を愛してる。そう思いました。
山田監督の言つたことで一番面白か
ったのは、照明とか音響とか、技術
は著しく発展しているが、まだ小津
安二郎の作品を越えた映画は撮つて
いない、ということでした。又、鶴
岡には、現代では失われた良いもの
が沢山残っている。けれどもいまだ
もつて酒井邦はないだろう、だつた。
郷土愛とか、母校愛というものは、
今、愛国心を植え付けようとしてい
ますが、こういうものを持てとか、
愛せとか言つても何もないですね。
そこに生きている人、一緒に生きて
いる人、自然、そういう具体的なも
のを愛すること、大事にすることだ
と思うのですが……。

TURKEN 創造新時代

坂元税務会計事務所
税理士 坂元 鐵平 (62回)
事務所 〒228-0011 神奈川県座間市相武台3丁目4721番地13
三協相武台駅前ハイツ207号
電話 046(253)6049 (代) FAX 046(256)7594
自宅 〒228-0012 神奈川県座間市広野台1-3-12
電話 046(255)2051

郷土の先達の
恩恵を受けて



本間義信

高校生だった時と思うが、小学生だった下の弟を連れて黒崎眼科に通つたことがある。小太りのギョロ目の先生だったが比較的若くして亡くなられたと後に聞いた。この眼科医の父親が聖書学者であつた黒崎幸吉であり、そのまた父親が書家黒崎研堂である。

黒崎研堂は庄内藩家老酒井了明の三男で、庄内柿栽培の酒井調良は次兄である。黒崎友信の養嗣子となる。戊辰戦争に際しては一七歳で農兵小隊長として従軍している。

研堂は幼少の頃より書に長じ、一八八六年(明治十九年)に書道界の第一人者日下部鳴鶴が鶴岡に来訪した折に入門し、研鑽を重ねて庄内における書道興隆の基礎をつくつた。多くの門弟を育てたが、書道家松平穆堂は門下生の中で随一の逸材である。

松平穆堂は門下生より寄贈された書道館で後進の指導につとめた。その門に学ぶ者は、小学生にいたるまで数千人に及んだと言われる。結果庄内書道王国の実現を見るに至る。小生は小学三年の時に入門し、中学生三年まで毎週書道館に自転車で通

つた。現在、東京世田谷区在一の教会の牧師として、毎週日曜礼拝の看板を書いている。基礎は、書道館での練習教導の賜物である。書道館を媒介しながら、黒崎研堂の恩恵に与かっているのである。

黒崎幸吉は黒崎研堂の長男である。東京帝国大学在学中、内村鑑三の感化を受け、聖書研究会に加わった。卒業後、住友に勤務するが、夫人の死を機会に辞任し、内村の伝道を助ける。その後、ヨーロッパに留学し、A・ハルナックやダイスマンに師事し、K・ハイムの影響を受ける。無数の伝道者や指導者たちは、それまで殆ど独学の人々だったが、そうした中で、幸吉はじめて専門的な学問を正式に修めた人物である。帰国後、鶴岡に住んで、月刊誌『永遠の生命』を創刊し、独立伝道者となつた。後に病気を得て、関西に移り、大阪や京都で聖書研究会を開いた。昭和五年（一九三〇年）のことである。昭和十五年ヒトラー批判をした為、『永遠の生命』誌は発行停止となつた。第二次世界大戦中、日本の米英に対する戦争を「神の審き」と見たことがあ

（正統十卷）などがある。これらの著作は、青年時代から還暦を通過した今日に至るまで、小生の書棚にもあって、本の表紙が擦り切れる程、用いられ役立っている。毎週何度となく、説教や奨励や講演の準備をするのに助けられて来た。

現在、小生はプロテスチアントの教会の牧師を務めているが、黒崎研堂、黒崎幸吉の父子に、直接的にも間接的にもお世話になつてゐる。郷土庄内、鶴岡と、こんな形態で、東京にあって結びついているのである。知らずに育つて来て、気がついたらそうなつていたのである。不思議な縁（えにし）である。

どうか 皆で見てください!
東京鶴翔同窓会
ホームページ
<http://www.tokyokakushou.com>
『母校・郷土・友』
の
情報満載です。
★第33回東京鶴翔同窓会への「出欠」の返事も
ホームページからできます。

編集から出版までのトータルプランナー

 株式会社 **日本商業宣伝社**

日本総合出版(株)

佐藤成生 (59期)

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巣町567番地
TEL 03(5287)5885 FAX 03(5287)5632

内科 胃腸科 小児科
佐藤医院
院長 佐藤 一夫 (昭和40年)
〒134-0083 東京都江戸川区中葛西1-4-16
TEL. 03-3688-7460 FAX. 03-3688-7419

株式会社 遠藤会計事務所
代表取締役所長
税理士 遠 藤 研 一 (76回卒)
事務所 〒997-0042 山形県鶴岡市新形町21番20号
電話 0235-22-2884(代表)
FAX 0235-24-3846

崎市議会議員 副議長 菅 原 敬 子 (62回)

私が高校を卒業してから、早五年が経とうとしている。今でも実家に帰省する度に車窓から見える鶴岡公園は、月日に色褪せることなく、昔と変わらぬ姿で私を迎えてくれる。公園を囲むお堀を廻って、莊内病院の前を通り過ぎ、銀座通りを抜けて駅へ向かうルートが、当時の私のお決まりの通学路だ。そして何故だろう？高校時代を振り返って蘇る思い出は、全てその通学路の路に通じる。その時、私が知っていた全宇宙は、あの決められたルートの上で回転する自転車と、それに乗る自分がだけだった。

今回の総会のテーマに纏わるエピソードを中心に、高校時代を振り返る時、あらゆる回想を阻むのがその一筋の路である。当時、置かれていた環境があつて、友がいて、その中で積み重ねた歴史があつて、確かにそこで私は息をして生活していたはずなのに、それら全てを打ち消してしまう「日常の路」が私の頭を支配してしまうことに、ある種恐ろしさを覚えた。

変化という体験



齊藤 栄一
(108回卒)

私が高校を卒業して三年が経ちました。今、私が三年間を振り返って感じることは、自分自身が変化したことです。当時は音楽部に所属しており、受験との両立に苦労していました。自分がどれほどの変化に耐えられる存在であるのか、考えたことがあります。また、自分を発見したのも母校南校でした。かを学んだのが鶴岡南高校でした。そして、変化に耐えられる自分自身を発見したのも母校南校でした。変化にはどうも耐えられそうにないと思っていた私が、いとも容易に受け入れられる変化など、変化の名に値しないのだという現実を思い知ったのも、三年間という短い在学期間の中でした。

教育というは何にもまして変化を志向した体験です。しかも、それは予想をはるかにこえた何かに変化しつつある自分自身を発見するという驚きの体験です。そして、その驚異を誘発する装置が鶴岡南高校にほ

私が高校を卒業してから、早五年が経とうとしている。今でも実家に帰省する度に車窓から見える鶴岡公園は、月日に色褪せることなく、昔と変わらぬ姿で私を迎えてくれる。公園を囲むお堀を廻って、莊内病院の前を通り過ぎ、銀座通りを抜けて駅へ向かうルートが、当時の私のお決まりの通学路だ。そして何故だろう？高校時代を振り返って蘇る思い出は、全てその通学路の路に通じる。その時、私が知っていた全宇宙は、あの決められたルートの上で回転する自転車と、それに乗る自分がだけだった。

今回の総会のテーマに纏わるエピソードを中心に、高校時代を振り返る時、あらゆる回想を阻むのがその一筋の路である。当時、置かれていた環境があつて、友がいて、その中で積み重ねた歴史があつて、確かにそこで私は息をして生活していたはずなのに、それら全てを打ち消してしまう「日常の路」が私の頭を支配してしまうことに、ある種恐ろしさを覚えた。

振り返る小宇宙



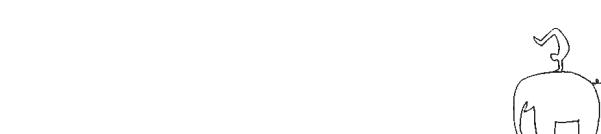
本間 梨江
(105回卒)

中学生時代から、「南高生」という肩書きと、「鶴岡」という響きは、温海出身の私にとって羨望の対象だった。「南高」は周知の名門校で、そこに合格することが私の全世界でもありました。高校入学後、新しい仲間に囲まれ、刺激のある生活がスタートする。初めて誰にも管理されない自由を覚えた。誰の目も意識せず、むしろ誰かの目に映ることを好むようになった自分が居た。それを人は「自我の覚醒」と呼ぶのだろうか？競争を嫌うと同時に、競争に勝たなければならぬ自分を肯定しなければならなかつた。自己矛盾との葛藤、自己解体。あの頃は、常に内なる自分にベクトルが向いていた。そこには、母校も郷土も友の意識も存在していないかったことを肯定しなければならない。私は、もっともと狭い自己の中の小宇宙を漂つていたに過ぎない。

今にして思えば、部活動を通して触れた英語文化が、その後に続く自身の多様な文化意識を形成したといえる。わたしは、それまでの小宇宙

最後に、どれほど人生のステージが移り変わっても、生まれたときから故郷で育んだ小宇宙はわたしを形成する全宇宙でもあることを述べたい。自分自身を模索しながら、母校で、友と共に育んだ形の無い歴史の系は、東ねられて「今」という路に続く。「小宇宙」を抜け出る切符は手に入れても、そのちっぽけな宇宙が永遠にわたしの全てを物語る全宇宙であることに変わりは無いのだ。

から一步踏み出して外界を知ることになった。直接的な言い方をすれば、大学進学を通して広い世界を知った。そうやってベクトルを外に向けることで結局いま、自己を客体化する作業に向かっている。



東京羽黒会

出羽三山の里 羽黒町出身の首都圏在住者の古里の会です
今年33回の総会を6月29日(日)日暮里のホテルラングウッドで開催します 皆様お誘いのうえお出掛け下さい お待ち申し上げます

会長 山本四郎 役員一同

〒101-0032 千代田区岩本町1-7-1 漢木診療所TEL03-3866-7313
E-mail yama46@kojima.net
y.y.s.a.y@docomo.ne.jp

郷土料理



「お昼食、ご用意しております。」

おばこ

大内 隆 (酒田市出身)

東京都中央区銀座1-4-10
大内ビル(実業之日本並び)
電話 03-3561-6466

「お昼食、ご用意しております。」

アイケイ食品株式会社

<http://www.m-mart.co.jp/ik/>を覗いてみて下さい。

代表取締役 清原 一太

〒332-0003 埼玉県川口市東領家2-34-8
TEL 048-225-0026(代)
FAX 048-224-8367
<http://homepage2.nifty.com/aikei/>

水処理プラントの専門メーカー

鶴岡工業株式会社

代表取締役 倉田 正

住所：東京都大田区京浜島2丁目3番7号
電話：03-3790-2233 (代表)

クローバー学習教室

ひとり一人に合わせた丁寧な指導

指導対象…幼児・小学生・中学生
指導教科…算数・数学・国語・英語
指導者…岡部 実知子

住所 〒116-0011 東京都荒川区西尾久5-7-25
TEL 03-3893-9876

全国新酒鑑評会3年連続金賞受賞
東北清酒鑑評会5年連続金賞受賞 春秋8回連続金賞受賞
2001年総代拝命

白露垂珠 竹の露(資)

羽黒町大字猪俣新田字田屋前133番地 TEL62-2209 FAX62-3306
E-mail yamagata@takenotsuyu.com URL <http://www.takenotsuyu.com>
代表社員 金野松弘 (62回卒) 製造責任者 相沢政男 (87回卒)

オリジナルキャラクター



「元気」「活気」 つるしん

鶴岡信用金庫

税理士 長谷川 久一

事務所 東京都江東区亀戸1-39-1-607
〒136-0071 TEL (03)3684-6001
FAX (03)3684-8200
自宅 東京都江戸川区東小岩5-15-5
〒133-0052 TEL (03)3657-7644

最後まで“自分の歯で食べる”ための、
正しいブラッシングを

アリス歯科 0467-53-3210

神奈川県茅ヶ崎市高田4-4-5 院長 林 るり子 (74回・旧姓寺尾)

第32回 東京鶴翔同窓会総会 出席者一覧

第32回総会は、「こばえちゃI Tの～」のテーマのもと平成14年6月15日(土)盛大に開催されました。
於:日本海運倶楽部2F大広間



なごやかなうちに親睦を深める
パーティー



▶ 岡部実行委員長 誕生の瞬間

私たち八十五回生は、九年前に初めて東京鶴翔同窓会に出席しました。そのときに「もう一年早く参加してくれていたら…」と残念がられたのは、卒業回の末尾五のOBが実行委員をつとめた会が前年すんだばかりだったからです。

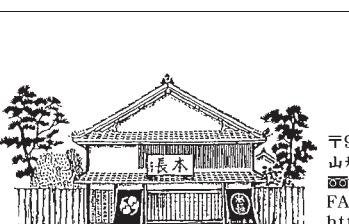
あれからもう九年がたちました。そして、語呂のいい第三十三回の実行委員が回ってきて、最初の実行委員会が開催されました。その席で、ほんの思いつきから「第三十三回にちなんでテーマを『愛、燐々』にしましょう！」などと提案してみたところ、巨人好きの岡部実行委員長は「ジャイアンツ愛」の「愛」を、桜井会長は美空ひばりさんの歌「愛、燐々」を連想され、すんなり「愛、燐々」というテーマが採用されました（実を言うと、私としては、同期の鯉川酒造社長・佐藤一良君が作詞・作曲で歌う山形県酒造組合のCMソング「出羽燐^{でわさん}SUN！」をイメージしていたのです）。副題の「郷土愛・母校愛」も、ほぼその場で決まり、あとは次への宿題となりました。それから一ヶ月余り後、実行委員会に初めて出席された高橋詢先輩

(六十五回卒)が、さりげなくおつしやつた「友愛」という一言に、皆「我が意を得たり」とばかりに賛同を示しました。今回のテーマが決ましたのでした。

そこで、私は、この「愛」というテーマのなかで、特に「友愛」に着目し、同期生の結集を呼びかけることにしました。とりわけ私たち八十五回生の首都圏組は、今年、卒業二十五周年記念行事の企画も進めているので、どうしてもひとりでも多くの「友愛」が必要だからです。

現在、八十五回生の首都圏在住者は七十名ほどですが、そのうち、東京鶴翔同窓会には三十名以上、二十五周年記念行事には四十名以上が参加をしてくれたらと思うのは私・大泉の勝手な希望です。けれども、これが私の楽観的な夢想と言われないように、^{やうの}85年の会のマーリングリストを立ち上げて、少しずつ仲間を増やしています。このマーリングリストを使つて、さまざま身辺雑事の連絡に交えて、東京鶴翔同窓会の連絡はもちろんのこと、鶴翔塾の企画や85年の会二十五周年記念行事の打ち合わせなどもおこなっています。そこで、

集まれ！八十五回生！ 集まれ！
第三十三回東京鶴翔同窓会！ 集まれ！
れ！ 85の会！ 二十五周年記念！
(85の会メーリングリスト入会は、ま
ずは E-mail : oizumi@bb.mbn.or.jp
へのメールから。)



手造りの味
つけもの処 本長
7-1124
県鶴岡市大山1-7-7
リーダイアル 0120-330-878
0235-33-0878
<http://www.k-hancho.co.jp>



〒997-1124 加藤嘉八郎酒造株式会社
山形県鶴岡市大山三丁目1-38 TEL 0235(33)2008



湯野浜温泉に泊まって『運転免許』を…

鶴岡自動車学園

 〒997-0045 山形県鶴岡市西新瀬町6-34
代表取締役 斎藤征士(昭和37年)
TEL 0235-22-6200(代)
www.ocn.ne.jp/~tsuruoka/ E-mail:tsurums@poplar.ocn.ne.jp